

仲間と一緒に富士山からの湧き水の恵みを体験！

令和8年度 緑の少年団交流集会『富士山湧き水の恵みを体験』活動レポート

7月29日（水）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『緑の少年団交流集会富士山湧き水の恵みを体験』が富士宮市猪之頭湧水群で開催されました。県内の2団体の少年団、計12名の子供たちが参加。当日は、晴天に恵まれ猛暑の中での湧き水体験となりましたが、子供達にとってかけがえのない経験となりました。

水の都 猪之頭と井之頭！？

当日は、10時に井之頭区民館に集合。区民館は木をふんだんに使用して建てられていることもあり、木の香りがする部屋で交流集会の開会式が行われました。まず、運営のNPO法人ホールアース自然学校のスタッフからスケジュールと注意事項の説明があり、子供達は真剣な表情で話を聞いていました。スタッフが富士山近郊の立体図を出し「今いる所がどこかという、この辺です。」と指で差しながら「みんなも触ってみてね。」と順番に席をまわりました。子供達は興味津々に立体図を触っていました。「猪之頭は水の都と呼ばれていて、富士山の湧き水が豊富に湧いていて今日はその湧き水を見にいきます。」と説明があり、その後猪之頭地区のパンフレットが配られると、これから行く湧水群への期待が高まっているのがわかりました。開会式が終ると、子供達は水着になるなど川に入る準備を整え、ワクワクしながら外に出て行きました。

外は気温がグングン上がり絶好の湧き水体験日和。スタッフから改めて「ケガのないように。水分補給はすること。」「今日は森の役割と水の恵みについて学びましょう。」と注意事項と今日の目的についての話がありました。「この地域は猪之頭と書いて「いのがしら」というけど、ここの井之頭区民館の字が違うでしょ。小学校もここと同じ井之頭小学校っていうんだけど、昔はこの井之頭が使われていたそうです。この「井」は水が豊富な意味で、当時のお殿様が水が豊富なら米が沢山取れるだろうから年貢を多く納めるようにと言われたことから、住民がここは猪が多くて米なんか取れないと言って年貢を少なく済むように名前を猪之頭に変えたという話が残っているんだよ。」「へえー。そうなんだ。」と自分達が今訪れている場所の歴史についても学ぶことができました。話が終わり、いよいよ五斗目木川と陣場の滝に向かってスタートです。

昔活躍した水車との出会い

井之頭区民館からしばらく田んぼ道を歩くと、目の前に大きな水車が現れました。普段見ることのない水車に子供達驚いていました。スタッフが「ここでクイズ！これは何に使われていた水車でしょう？」「えー何？」「ここは山が近いよね。」「なんか後ろの方に付いているのわかる？」「あー木を切ったとか。」「そうそう、昔山から切りだした木を、水車の力でのこぎりを動かして運びやすいサイズに切ったんだよ。」と昔活躍した古い水車の歴史も学んでいました。



のどかな雰囲気の家々の間を歩きながら、湧水群へ向かいます。子供達も楽しそうに話しながら川に向かって足取りも軽やかに進んで行きます。



立体図を興味津々！



猪之頭の歴史についての話を聞く子供達



湧水群に向かってスタート！



昔、木を切るために使われた風車

五斗目木川に到着！

約 15 分程歩くと五斗目木川に到着！子供達は川を見てテンションが上がっています。スタッフから「これから川に入るけど、絶対に泳がないこと。泳ぐ場合は、ライフジャケットを着ないといけないから今日は川や滝では足を浸けたり、水遊びをするだけにしよう。」との注意がありました。「じゃあ、あの階段から降りて川に入るよ。」階段を下りて順番に川へ入る子供達。「冷たい。」の聲があちこちから響きます。「冷たすぎて足が痛い！」そんな声も聞こえますが、みんな楽しそうです。「じゃあ、これから滝に向かって歩くよ。」スタッフの後に子供達が続きます。よほど冷たいのか歩く速度もあがっていました。「ここでクイズ！川の水温は何度でしょうか？」「えーマイナスじゃない」「15 度」など色々な答えが飛び交う中「じゃあ、実際に図ってみます。答えは…12.5 度」「12.5 度だってー冷たい。」子供達は、水の温度とともに自分が体感している冷たさを痛感しているようでした。「みんなあそこを見て。水の色が違うのがわかる？」スタッフが指さす方を見ると、川の色が変わる場所がありました。「あの水の色は所は急に深くなるから絶対に近づかないこと。川の水の色の違いを覚えてね。」子供達は川の水の冷たさや危険さも学んでいました。



階段を下りて川へ！



川の水は何度かな？

いよいよ陣場の滝とご対面！

冷たい川を歩き上ってきた子供達の目の前に陣場の滝が現れました。陣場の滝は、水しぶきをあげながら美しい姿を見せてくれています。「じゃあ、ここでしばらく遊んでいいよ。絶対泳がないように。」スタッフがそう言うと、子供達はそれぞれ思うように川で遊び始めました。ある子は水が冷たいからペットボトルを冷やすといってペットボトルを川につけて「これも川の恵みだよ」と笑顔で言い、ある子は暑いからといって頭を川に突っ込んだり、川の生きものを探したりする子など自由に楽しんでいました。「見て見て！ここから水が湧いてる。」その子の指さす所を見ると、小さな穴から水が湧いていました。滝の側でも水が湧いていることに改めて水の都であることを感じました。川と滝遊びを終え、次に近くにある小さな水車を見学です。「この水車は今は特に役割はないが、猪之頭地区の人たちが昔の風景を取り戻そうという取り組みの一つだよ。」スタッフからの説明がありました。「もう一か所、この近くに水が湧く所があるからそこを見に行くよ。」その場所は、民家の横に湧く水で神様が祀ってありました。「ここに住む人は水を大切に守って暮らしているんだよ。」スタッフの話に子供達も真剣に耳を傾けていました。



ペットボトルを川で冷やしたよ！



水が湧いてるよ！



滝の前で記念撮影

鱒のつかみ取りとワサビ田見学

湧水群を体感した子供達はお楽しみの鱒のつかみ取りへ。養鱒場に着くとまずは併設しているワサビ田を見学。わさびはきれいな水でしかできないこと、これも水の恵みであることを学びました。

鱒のつかみ取りは、子供達にとっても一大イベント！池に鱒が放たれると鱒めがけてつかみにかかります。なかなかつかめないのではという大人達の予想を覆し、あっという間に捕まえているその姿はとても誇らしげでした。つかまえた鱒は、養鱒場のスタッフに炭火で焼いてもらい、昼食です。自分達で捕まえた鱒を頬張ると「おいしい！！」という声上がり、これまた予想外にきれいに食べていました。楽しいつかみ取り体験とおいしい昼食を食べて大満足で今日の交流集会は終りを迎えました。閉会式では、今日の体験で印象に残ったことを紙に書き、グループに分かれて発表です。「12.5 度の水が冷たかった。」「富士山の地層の意味を知れた。」「鱒を食べて骨の大きさやしくみを知った。」「湧き水の湧き方に種類があるのを知れた。」などそれぞれ多くのことを感じたようでした。今回で最後となる交流集会は、子供達にとって実りの大きい1日となったようで、良い思い出として刻まれることでしょう。



鱒のつかみ取り



おいしいよ！



感想を発表